

多賀



御田植祭

稲作の恵み

先ずは、元旦早々能登半島での震災で、被災されました方々に衷心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、古典に日本の国は「豊葦原瑞穂国」と称されています。神話には瓊々杵命にぎのぎのが高天の原より天下られる折、稲が豊かに稔る麗しい国にせよとの命を受け降臨されたこと記されています。所謂 三大神勅の一つである「齋庭稻穂の神勅」です。

爾来、稲作は日本の国と日本人を今日に至るまで育んできました。全国で行われる年中のお祭は、稲作に関連する祭祀が多く伝承されており、稲作の実践と豊穰への祈願が各地で行われています。主食であるお米は神祭りの供饌として奉獻されるのみならず、国の隆昌に大きく寄与してきた極めて重要な穀物であります。

滋賀県は農耕の盛んな地であり、古来より初穂米が献納されていたであろうが、改めて農家を組織し之を豊年講と称したのは昭和二十五年の事です。往時には約五百俵以上もの初穂米が当社へ奉獻され幣殿や拝殿は横山の如く積み上げられた新穀を前に多くの講員が参列し、厳肅に祭祀が行われてきました。近年は過疎化に加え非農家も多く、初穂米は減少したものの、県外の農家からの奉獻もあり、改めてご神恩に感謝する次第であります。

食生活の西洋化から、主食米の需要が減少傾向にあり、その傾向は加速しているとの事。当然、農家にも多大な影響を与え、稲作自体の衰退に繋がりがねず、農耕文化の継承を危惧するところ です。

古来より日本の国を育んできた稲作は、単に食料というだけではなく、国土や民族を育ててきたものであり、自然や米の生産者による恵みを受け、支えられているものである事に改めて感謝しなくてはと思いを新たにしています。

宮司 片岡 秀和

多賀まつり

古例大祭

湖国の春を彩る古例大祭が四月二十二日斎行されます。当社の年中祭事において最重儀とされ、一月三日の差定式にて「馬頭人」・「御使殿」が祭りの主宰として差し定められました。

本年は馬頭人としてこじまひろあき児島裕明氏、御使殿としてこすがようすけ小菅要亮氏がご奉仕されます。

当日は、神輿・鳳輦をはじめ騎馬供奉四十数頭のご神幸行列が整えられます。古例大祭は別名「馬まつり」とも称されるように馬の蹄が響く中、お渡りの一行は町内を練り歩きます。



馬頭人

こじま ひろあき
児島 裕明 氏

昭和29年5月12日生（満69歳）
 ・住所 彦根市南川瀬町
 ・現職 関西産業株式会社 代表取締役会長



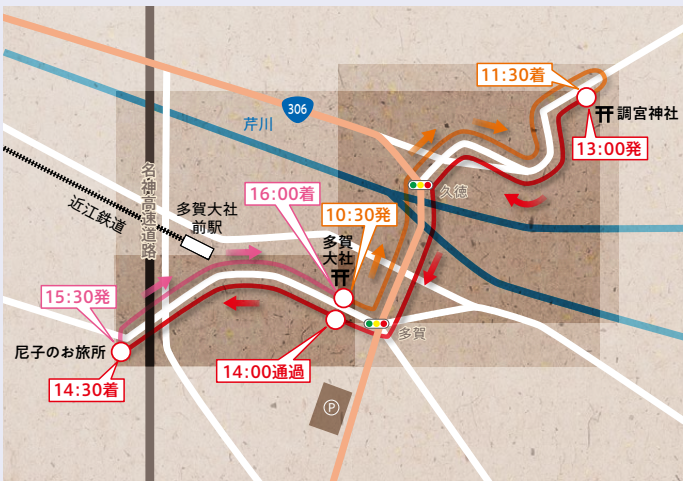
御使殿

こすが ようすけ
小菅 要亮 氏

平成13年11月21日生（満22歳）
 ・住所 犬上郡多賀町月之木
 ・現職 会社員

※令和6年3月1日現在

◆御神幸MAP



◆当日の流れ

午前8:30	本殿祭
午前10:30	御神幸出発 宮司以下祭員は栗栖（調宮神社）へ 馬頭人は彦根市（都恵神社）賓台へ
午後1:00	調宮神社を出発
午後2:00頃	本社前を通過 （馬頭人・御使殿合流）
午後3:00	富ノ木渡し式
午後3:30	尼子のお旅所を出発（本渡り）
午後4:00	本社到着 夕日の神事



豊年使



●愛荘町

八木荘東部地区

〈講員数〉 一三二

十一月二十三日 新穀を感謝する新嘗祭(豊年講秋季大祭)でご奉仕されます。豊年使は前日夕刻より参籠(神社に籠り潔斎)し、大祭当日は本殿にて秋の実りに対する感謝の祭詞を奏上します。拝殿には講員皆様からの丹精込めた初穂米が横山の如くお供えされます。

●東近江市
永源寺地区
〈講員数〉 一六三



祈年使



●東近江市

永源寺地区

〈講員数〉 一六三

三月十七日 五穀豊穡を祈願する祈年祭(豊年講春季大祭)でご奉仕されます。祈年使は前日夕刻より参籠(神社に籠り潔斎)し、大祭当日は本殿にて祭詞を奏上し豊穡と豊年講員の息災を祈願します。

●愛荘町
八木荘東部地区
〈講員数〉 一三二

祭典日	該当年
5月17日(金)	昭和30年生
5月31日(金)	昭和23年生
6月23日(日)	全会員
7月12日(金)	昭和50年結婚
9月20日(金)	昭和20年生
10月18日(金)	昭和12年生

●会費 (祈禱料・昼食)

- ・ 筵寿祭 (本人) 15,000円
- ・ 崇敬会大祭 (会員) 3,000円
- ・ 金婚筵寿祭 (夫婦で) 20,000円

※該当者へは神社より時期が近づきましたらご案内状をお送りします。

但し、金婚筵寿祭については直接神社へご連絡下さい。



多賀大社・筵寿祭WEBページはこちら ▲

筵寿祭／崇敬会大会のご案内

一月一日に発生しました能登半島地震に対して、参拝者の皆さまから預かり致しました金、七〇三、五八二円(二月十日現在)の義捐金は被災地へお届けさせて頂きます。皆さまの温かいお気持ちに感謝申し上げますと共に、被災地の復興とご平安をご祈念申し上げます。

能登半島地震 義捐金御礼

おしまつ
老松と若松
わかまつ

皇學館大学 名誉教授

櫻井 治男

皇學館大学名誉教授
櫻井 治男 (さくらい はるお)
昭和24年 京都府生まれ
皇學館大学大学院
文学研究科修士課程修了
平成30年
第28回南方熊楠賞(人文の部)受賞
専門は宗教学・宗教社会学
神社祭祀研究

お酒の銘柄や和菓子、あるいはお店の名称に用いられることの多い老若二種の松。長寿の象徴とみなされる老松と、かたや瑞々しく勢いのある若松であるが、「青松終古の春」といわれるように、いつまでも青々とした松は、歳月の極まりがない永遠の春を表象すること。門松をはじめとする正月飾りに用いられ、祈年の御田植神事に松葉を稲苗に見立てて植える所作が行われるのも故あることと言えよう。

ところで、お多賀さんへお参りすると、石橋を渡り神門をくぐったとたんに前面が広がり、御本殿を囲むように立ちならぶ大杉に目を奪われる。その様子は、往時の社頭を描いた安土桃



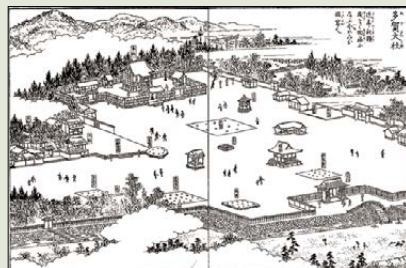
多賀社参詣曼荼羅 (古本)

山時代の『多賀社参詣曼荼羅(古本)』(註1)の図柄と重なって来る。

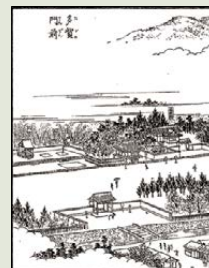
図の上部、御手洗川を隔てた社頭空間の建物(本殿・如法堂・不動院・山田神社・日向神社・本地堂)背後に描かれている木々は全てを杉が占めている。一方、川と中山道とを隔てて下部に描かれる胡宮神社・福寿院・大滝神社等の背後では、さほど杉は強調されず、むしろ桜や松など多種の草木が描かれている。そして椋か榎かの議論があったと伝わる飯盛木(ケヤキ)が中央部に大きく位置を占め、それへ視点を向けるように仕掛けられている。この点では、杉木立とケヤキの大木がお多賀さんの社叢イメージを特徴づけているように思われる。

一方、近世に出版された名所案内の『近江名所図会』(註2)を眺めてみると、少し趣が異なっている。その第四巻「多賀大社」と「多賀門前」の図、現在の反り橋(太閤橋)から西参道入口の石橋までの連続場面では、本社・不動院・般若院の背後に、「七本杉」の名称や杉の高木がしっかり描かれているが、川の

多賀大社・多賀門前・高宮駅 「近江名所図会」より抜粋



〈多賀大社〉



〈多賀門前〉



〈高宮駅〉

手前の山は雲で覆い隠され、その狭間の立木は殆どが松となっている。大雑把に捉えれば境内の内は「杉」、外は「松」という構図が読み取れ、「高宮駅」の大鳥居をへて門前町を歩んで来た参詣者は、右手の松山を見つつ境内へ入ると大杉に出合い、その威

出典：秦石田・秋里籬島『近江名所図会』巻4(平成14年、臨川書店)

容に感じ入る体験をしたのではなからうか。

お多賀さんで「松茸狩り」とはかつて伺った話であるが、松林の里山風景は門前町の構成要素となってきたのであろう。そこで、更ためて

多賀大社と松との接点に思いをめぐらすと、境内二か所の松が想起される。

一か所は、拜殿の中央向拝の左右で参拝者を迎えてくれる松の姿である。冬場になると雪吊りが施され、かたちの整えられた姿を思い出される方も多いことだろう。ご教示によれば、右がチョウセンゴウウ松、左がゴヨウ松で、いずれも境内整備に伴い現在地に植樹されたとのことで、「若松」から壮年の松へと成長している姿として見守りたい。

もう一か所の松とは能舞殿の鏡板に描かれた堂々たる「老松」である。バーチャルリアリティーの松と言えようか。作者は、日本画家・川面稜一氏（大正三年〜平成十五年）で、建造物色彩の国選定保存技術保持者でおられたとお聞きしている。

鏡板に描かれる松のルーツは、奈良市の春日大社参道にある、神霊の依り坐す「影向の松」にあるとされるが、鏡板の出現は江戸時代のこと、それまでは吹き抜け舞台であったという。確かに「多賀大



多賀大社造営略図
出典：『多賀神社史』所収「第17図」（カラー）

社造営略図」（註3）に描かれている「能舞台」も吹き抜けとなつている。本図は江戸時代末ころの境内景況とされるが、周辺に描かれた松の木が心持ち多いとも思え、本殿背後が杉のみとなつている状況と対照的である。

現在の能舞殿は明治二十九年の暴風倒壊後の、四十年に再建された建物で、大正期の境内絵図には今の絵馬殿の位置にあったが、昭和初期の大造営に伴う境内整備で現在地へ移動された由である。

こうした常設の舞台に対して、江戸時代の『多賀社参詣曼荼羅（新本）』には、吹き抜けて四輪の付いた移動式の舞台が描かれ、神前で「翁」舞が演じられている様子も窺われる。正徳元（一七一）年の「多賀大社年中行事下行之覚」（註4）によれば、正月二日には「連歌初メ」とともに「能初メ」が行われる慣例であった。また、他の年中行事資料も参考にすると、正月十五日と六月中旬日にも神前能が行われていた。現在も一月三日に「翁始式」が行われ、「翁三番叟」「屋島」



移動式舞台「多賀社参詣曼荼羅（新本）」より

「福の神」の三番が舞われることとなっている。年の始めに天下泰平の祈りをささげる時、長寿の「翁」神霊が松を背景に登場する様は、その願いを確約してくれるようである。そこに

神事芸能の重要性があろう。新春と松とは切り離せない景物であり、かつては宮中や民間で、正月最初の「子日」に、東の野に出て「小松」を引き、若菜を摘む「子の日遊び」が華やかに行われていた。小松の持つ生命力への信仰に基づくものである。

往時の吹き抜け舞台に何らかの形で「松」が登場していたのかどうか知らないが、年初に能舞台を神前へ引きよせ「翁」を舞う春迎えの伝統は、いまま境内「東方」の能舞殿で行われている。この日の老松はまさにリアルな「影向の松」そのものといえよう。

註

- (1) 『多賀社参詣曼荼羅』は数種の伝本があり樹相の描き方が異なっている。ここでは多賀大社所蔵の「古本」によつた。曼荼羅については、河野訓「多賀大社の神仏習合と神仏分離Ⅱ」（『たが』五八号、平成二九年一〇月）、大阪市立博物館編『社寺参詣曼荼羅』（一九八七年、平凡社）を参照。
- (2) 『近江名所図会』は先行の『伊勢参宮名所図会』（寛政九年刊・一七九七）、『木曾路名所図会』（文化二年・一八〇五）、『二十四輩巡拜図会』（享和三年刊・一八〇三）より関係箇所を抜き摺のうえ一書に仕立てたもので、文化十一年（一八一四）の刊記を持ち、実際は翌年出版承認を得た。多賀大社の個所は『木曾路名所図会』を利用してため柱刻に「木曾一ノ五十四」のように丁数が残されている。
- (3) 『多賀神社史』（昭和八年、多賀神社）所収「第一七図」
- (4) 『多賀大社叢書・記録篇一』（昭和五三年、多賀大社）

節分祭

福は内!
鬼は外!

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

- ◆多賀町
 - 平塚 一弘
 - 本庄 邦治
 - 高橋 俊行
 - 高橋 清美
 - 小澤 祥浩
 - 小財 進
 - 西村 雅史
 - 西尾 公志
 - 増田 浩
- ◆甲良町
 - 松宮 正浩
 - 伊藤 昌治
 - 伊藤さち子
 - 上田 徹也
 - 大野 雅章
 - 大野 信子
- ◆彦根市
 - 中村 博行
 - 田附 唯志
 - 川邊 和明
- ◆東近江市
 - 押谷 良弘
 - 押谷 曜子
 - 井上 清
 - 岩本美智子
 - 山口 之宏
 - 川下 清子
 - 山口 博美
 - 小倉三喜男
 - 小倉きよみ
 - 大野 雅春
 - 重松 直樹
 - 小田柿喜暢
 - 鈴木 和慶
 - 田井中 徹
 - 円城 啓裕
 - 澤田 安彦
 - 北川 智子
 - 澤田 和重
- ◆近江八幡市
 - 中江 政善
 - 野田 和義
 - 深井起代子
 - 本間小五郎
- ◆甲賀市
 - 島岡 貞之
 - 小倉 泰史
- ◆竜王町
 - 村田 吉典
- ◆日野町
 - 三浦 和枝
 - 吉澤 増穂
 - 吉澤美穂子
 - 瀬川 和人
 - 瀬川 弘子
 - 清水 充
 - 坂田 浩和
 - 村田 勝利
- ◆東近江市
 - 垣谷 康隆
 - 原口 浩二
 - 原口 洋子
 - 辻 靖彦
 - 村田 浩
 - 大辻 孝
 - 高山 幸生
 - 高山 千穂
 - 小南 和也
 - 小南由美子
 - 出路 孝志
 - 榎田 善之
 - 小南 昌弘
 - 林 竜二
- ◆米原市
 - 戸田 義明
 - 長谷川辰幸
 - 中川 聡
 - 安田 正浩
 - 千葉 薫
- ◆長浜市
 - 山口 昌志
 - 西村 善成
 - 笹木 和孝
 - 藤居 吉次
 - 岩嶋 孝朗
 - 且本 安彦
 - 且本 敏幸
 - 柴田 健二
 - 木村 亘
 - 金子 眞弓
 - 前田 善朗
 - 那須 康敬
 - 古山 友和
 - 荒田 善彦
 - 北川 久継
 - 宮元 孫善
 - 中野 政信
 - 丸山 文雄
 - 草野 和幸
 - 中村 良
- ◆佐野
 - 修一
 - 英之
 - 泰幸
 - 恒久
 - 昭雄
 - 昭典
 - 良一
 - 善生
 - 明美
 - 浩志
 - 豊
 - 康巳
 - 孝義
 - 幸彦
 - 俊一
- ◆速水
 - 孝行
 - 辰佳
 - 稔
 - 隆義
 - 憲治
 - 和幸
 - 竜彦
 - 春美
 - 良治
 - 万裕
 - 丈太郎
 - 雄大
- ◆四日市市
 - 荒谷 雄大
- ◆富田林市
 - 西北 道代
- ◆御礼
 - 福豆奉納
 - 鬼神楽奉納
- ◆神崎 治
 - 因原神楽団

二月三日、節分祭が斎行されました。
 本年も感染対策を講じ、神職・還暦奉仕者による祭祀と厄払い神事を執り行いました。
 ご奉仕のご縁を以て節分会員になられた一二〇名の皆様をご紹介させて頂きます。



奉納

地元多賀町出身の大町憲治様より

・漆工芸作品 「風感飛翔」
ふうかんひしやう

— 古代より未来へ —

のご奉納を頂きました。

この作品は、人生において経験するであろう様々な困難を毅然たる信念で、立ち向かうさまを自身が空想する勇壮な鳥に喩えた作品であり、現在ご祈禱控殿に展示しております。



半世紀余りに亘り地元彦根および

県下風景をテーマに描き続けられる、

小田柿寿郎様（彦根市在住）より

絵画二点のご奉納を頂きました。

・油彩画

「冬の彦根（五番町）」

雪が緩み人々の生活が再び始

まる町の表情を描かれ、現在ご

祈禱控殿に展示しております。

・スケッチ画

「多賀大社風景二点組」

現在も連載中の中日新聞滋賀

版へ挿絵を提供された時の作品

です。



夏越の大祓い

六月三十日、半年間の罪

や穢れを人形代（ひとかたし

ろ）に託し、川や海に流す

神事、大祓式が行われます。

『水無月の夏越の祓する

人は、千歳の命、延ぶとい

ふなり』

六月上旬には皆様のお

手元に人形代をお届け致

します。



夏の風物詩 『万灯祭』

八月三日・四日・五日、

恒例の万灯祭が行われます。

境内は全国の皆様から寄せ

られた献灯で埋め尽くされ、

夏の夜空を彩ります。

万灯市や催し物も行われ

ますのでご家族お揃いでご

参拝下さい。

夏越の大祓いにあわせて

万灯祭へのご献灯をお願い

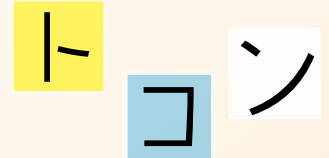
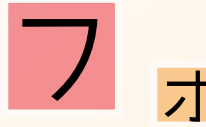
致します。





インスタフォトコン

第2回



開催決定!!

詳しくは



をチェック!!



多賀大社

〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀 604
tel.0749-48-1101 fax.0749-48-1105
✉ info@tagataisysha.or.jp

多賀大社 🔍 検索

<http://www.tagataisysha.or.jp>



@tagataisysha.official



@tagataisysha

非居住者ランキング
居住者ランキング

1位	京都
2位	福岡
3位	神奈川

— 兵庫
— 滋賀
— 東京

令和五年に大東建託(株)より発表された『街の魅力度ランキング』において滋賀県は全国総合二十三位と言う結果でありました。特に非居住者の満足度は三十五位と認知度や観光の魅力度が低いとの事です。しかしながら一方で、居住者の満足度は、なんと全国二位であり「住めば都」とはこの事なのでしょうか。

この社報が県外の非居住者皆様の目に触れる事により、少しでも滋賀県の魅力を伝える一助となればと願っております。

編集後記